

序

当教育研究所は、平成元年度も恒例の事業となっている教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿募集をしましたところ、各学校の先生方から9編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、9編のうち3編が論説、6編が実践記録となっています。

論説の内容は、一つは、教頭の立場から学校経営におけるリーダーシップについて、PM式測定法に基づいて論考したもので、望ましい学校運営の在り方を示唆してくれています。また、他の二編は、英語指導助手によるもので、本市における約6箇月の経験を通して得た実感を外国人の立場からまとめたものですが、異文化間の相互理解、協同授業の改善、英語担当教員の研修、等々について独自の見解を述べており、興味深い論文となっております。

実践記録につきましては、教科指導、学級経営、体験学習、道徳、性教育、などの領域のものですが、いずれも、学校における教育活動の全体像をしっかりとらえ、その上で、児童生徒一人ひとりを見つめ、確かな力をつけさせていこうとする研究実践であります。また、いずれの論文からも、今回の教育課程の改善の理念と方向を的確に把握しながら、それぞれの学校・学年における課題に真剣に取り組まれているようすがうかがえます。

以上、各先生方からそれぞれ特徴をもった論文をお寄せいただきましたが、これらの論文は、読者自らの教育観を深める重大な契機となるにちがいありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも、各学校における日々の教育実践に十分に生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待します。

なお、昨年度に引き続き今年度も、教育論文集第1集から昨年度までに掲載された、論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終わりに、論文をお寄せくださった先生方をはじめ、関係者の方々にお礼を申しあげるとともに、みなさまのますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成2年3月

足利市立教育研究所長

赤坂光三